

「働き方改革通信：チャレンジ」は、働き方改革の進捗状況や教育委員会及び各学校の取組を共有し、さらなる取組の推進・充実につなげることを目的として発行しています。

第2号は、スクールロイヤー制度の活用状況、時間外勤務時間の現状紹介、教育委員会の取組等をお伝えします。

スクールロイヤー制度の活用状況について

6月からの試行期間を経て9月より本格運用が始まったスクールロイヤー制度。9月からは管理職から直接弁護士に相談する「学校ダイレクト相談」も加わり、多くの学校から相談を受けています。その活用状況は以下のとおりです。

学校人事課・学校支援課を通じた相談件数

(同一校からの相談件数を含む)

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
件数	12	9	2	8	7	3

また、「学校ダイレクト相談」の件数は、9月以降合計20件でした。今後も随時メールを受け付けますので、気軽にご相談ください。

スクールロイヤーが教える学校問題の対応方法

後期に入り、校長会やモニター校で小金沢弁護士による学校問題対応方法についての研修会が開催されています。スクールロイヤーとして活動して気付いたことや学校問題対応のポイント及び解決の流れなど事例を基にお話いただいています。

中学2年生の男子生徒が学校に来なくなって2か月が経過しました。その経過は以下のとおりです。(略) 次の点を考えていきましょう。

- ①「いじめ」に該当する可能性があるのは、いずれの時点か。
- ②法的責任が問われる可能性があるのはいずれの時点か。
- ③どのように対応すべきだったか。

児童生徒のトラブルは常に「いじめ」に結びつく恐れがあります。児童生徒の変化に着目して「いじめ」を見逃さずに把握することが大切です。そして、「いじめ」の解消に向けて全力で取り組むことが必要です。



★スクールロイヤーからのメッセージ★

どんなトラブルでも、不安や疑問があったら早めに相談してください。スクールロイヤーに相談することで、先生方がトラブル対応に費やす時間や負担を減らして児童生徒と向き合う時間を確保し、教育に集中できる環境を整えるために尽力したいと思います。

月あたりの平均時間外勤務時間が45時間以下の教職員は増えたのか？

それぞれの校種における月あたりの平均時間外勤務時間が45時間以下の教職員は、以下の表のとおりです。各学校の各校一取組の充実と一人一人のタイムマネジメントの意識の高まりと考えています。

超過勤務時間の比較 (人数/合計人数 単位 %)

時間帯	学校種	年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月
45時間以下	小学校	H29	42.7	41.2	71.6	99.1	49.1	44.6
		H30	43.9	48.1	72.2	99.5	66.0	50.9
	中学校	H29	37.7	27.4	50.6	94.9	40.8	40.5
		H30	40.8	41.4	53.5	88.6	48.7	43.8
	特別支援学校	H29	73.9	72.9	95.5	100.0	83.3	88.1
		H30	68.7	82.7	90.7	100.0	88.1	77.9
	中等・高等学校	H29	69.4	70.1	89.2	100.0	65.3	63.9
		H30	71.3	68.9	74.5	88.2	72.0	67.7
	幼稚園	H29	83.8	98.1	100.0	100.0	75.7	97.9
		H30	75.4	75.4	80.7	100.0	91.2	75.4
	全体	H29	43.4	39.7	66.2	97.7	48.1	45.8
		H30	45.1	48.1	66.7	95.4	61.5	50.3

各学校の各校一取組については後日詳細をお伝えしますが、ここでは、小学校、中学校における取組数の多い「各校一取組ベスト3」を紹介いたします。

【小学校】

- 第1位 ノー残業デーの設定
- 第2位 業務の効率化・スリム化
- 第3位 退勤目安時刻の設定
出退校簿を活用した勤務時間の適正化

【中学校】

- 第1位 ノー残業デーの設定
- 第2位 業務の効率化・スリム化
- 第3位 ノー部活動デーの設定



教育委員会 課長級ワーキング

10月16日(火)

第2次多忙化解消行動計画における教育委員会の取組の進捗状況を確認し、今年度末までの各課の取組目標を確認するワーキングが行われ、以下のことについて進捗状況の確認を行いました。

- ・学校閉庁日の設定 休暇の促進
- ・時間外の電話対応の在り方検討
- ・学校事務支援員・部活動指導員の配置
- ・部活動指導ガイドラインの徹底
- ・授業実践や学校運営に役立つコンテンツを Web ページで共有 等

また、学校現場の負担軽減を図るための調査や報告回数及び報告内容の削減や各課が互いに横の連携を深めていくことを確認しました。

